

# 大牟田市立銀水小学校

## 1 本校のESDの特徴

本校では、地域の教育力を効果的に活用し、学習活動として学年の実態に応じた単元構成を工夫しながら、環境・エネルギー、地域遺産・世界遺産、人権・福祉の学習などを重視した取組を行っている。特に、低学年においては、児童の興味関心を大切に、楽しく遊びながら、身近な自然環境に関わっていくようにしている。3年生・6年生では、人権・福祉教育として障がいのある方との交流等を通して、みんなが安心して住み続けられるまちづくりについて考えることができるようにしている。4年生では、地域の宝を調べ、地域のために自分たちにできることを考えて行動し続けることができるようにしている。5年生では、地域にある自然環境に目を向け、自分の生活と関連付けて考えながら、学習したことを発信することができるようにしている。

このように、地域と直接関わる体験を重視し、その特色を生かしながら地域に対する感性を養うとともに、郷土の文化や生活に親しみ、郷土を大切にしようとする態度を育てるようにしている。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

### 【環境・エネルギー】

1年生「いきものとなかよし」	(SDG 14)	10時間
2年生「レッツゴー！町たんけん」	(SDG 15)	12時間
4年生「取り組もう、ごみ減量生活」	(SDG 15)	12時間
5年生「受けつごう、自然」	(SDG 14)	18時間

### 【地域・世界遺産】

1年生「がっこうにくるみちかえるみち」	(SDG 11)	6時間
4年生「銀水花いっぱい絆プロジェクト」	(SDG 11)	37時間
「知ろう、日本のよいところ」	(SDG 11)	8時間
5年生「受けつごう、銀水太鼓」	(SDG 11)	22時間

### 【人権・福祉】

3年生「心をつなごう、銀水っ子」	(SDG 3)	37時間
6年生「平和な社会をめざして」	(SDG 16)	20時間
「ふみだそう世界へ」	(SDG 16)	23時間



## 3 特徴的な活動事例の紹介

＜地域学習（4年生総合的な学習の時間 単元「銀水花いっぱい絆プロジェクト」）＞

### (1) 目標

○銀水校区の宝や学校生活と地域とのつながりについて調べることを通して、郷土を愛する心情と感謝の気持ちを持ち、そのよさを伝えるための活動について考え、工夫して実行することができる。

### (2) 実践の展開

- ①校区の宝や地域とのつながりについて話し合い、学習計画を立てる。(3時間)
- ②校区の宝について調べる。(14時間)
- ③地域の方や家族に感謝の気持ちを伝えよう。(13時間)
- ④「銀水花いっぱい絆プロジェクト」をまとめよう。(7時間)



### (3) 子ども達の様子

#### ①子ども同士のつながりを大切にする

主な活動の一つとして、銀水校区の宝や学校生活と地域とのつながりについて調べることを通して、郷土を愛する心情と感謝の気持ちをもち、そのよさを伝えるための活動について考える学習を行っている。

単元の導入では、5年生からノースポールの種を引き継ぐ時間を設定した。先輩達が大切に育ててきたノースポールを直接もらうことによって意識を高めることができた。展開の前半では、銀水校区の宝について、「ひと・もの・こと」の視点で整理し、調べてわかったことをグループでまとめ、学びを整理することができた。



5年生からの引き継ぎ式

#### ②地域とのつながりを大切にする

単元の展開部分で明らかになった、地域とのつながりに気づいた子ども達は、自分たちのために活躍してくださっている地域の方へ感謝の気持ちをもちはじめた。また、様々な活動をするきっかけになったことや、地域の方の思いや願いについてインタビューしたいと考えるようになった。

単元を進めていく中で、コロナ対応をする時期があり、実際に地域の方をお招きしての交流会は行うことができなかった。そこで、学年主任と連携して、地域の方へ書面でのアンケートをお願いし、子ども達の思いを伝え、コロナ禍でもつながりを大切にすることを考えた。その結果、子ども達は、地域の方の思いを受け止め、さらに感謝の気持ちをもつことができた。



花だんのお世話

花の生育状況に合わせて、地域の方をお招きし、花の贈呈式を行う予定である。コロナ禍ということもあり、Zoom等のアプリを使ったオンライン実施も視野に入れて実施することを検討している。子ども達は地域の方に感謝の気持ちを伝えるための方法を進んで検討し、地域とのつながりを大切にしていきたいという気持ちで、毎日ノースポールのお世話に取り組んでいる。

## 4 本年度の成果と課題

### ○成果

- ・自分たちが住んでいる銀水校区とのつながりを意識し、「自分にできること」を考えていこうとする子どもの姿がたくさん見られた。
- ・コロナ禍においても、地域の方々とのつながりを大切にするために、教師が窓口となって、子どもと地域をつなぐ役割を果たすことができた。また、「コロナ禍だからこそできること」という視野に立って、学習を進めていくことができた。

### ○課題

- ・問題を見いだしていくときには、自分事の課題としてとらえることができるように、教師から与えられた課題ではなく、地域にある宝を守りたいという思いを大切にして進めていけるように単元計画や活動を工夫していくこと。
- ・地域とのつながりから視野を広げるために、学年の系統性を意識した単元計画を今後作成していくこと。